

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 26 年 6 月

○ 概要

(1) 平成 26 年 6 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 5,561 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）2.8%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 8,640 円（伸び率 0.4%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,391 億円（伸び率 1.8%）、薬剤料が 4,160 億円（伸び率 3.2%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 534 億円（伸び率 22.0%）であった。（→P.4）

| 3要素分解 （→P.8~9） | 処方せん1枚当たり 薬剤料 | 処方せん1枚当たり 薬剤種類数 | 1種類当たり 投薬日数 | 1種類1日当たり 薬剤料 |
|-------------------|------------------|--------------------|----------------|-----------------|
| 実数 | 5,361 円 | 2.81 種類 | 22.5 日 | 85 円 |
| 伸び率（%） | +0.3 | ▲0.1 | +2.7 | ▲2.3 |

(2) 薬剤料の約 85%を占める内服薬 3,451 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）91 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 876 億円（伸び幅▲23 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 11 中枢神経系用薬の 36 億円（総額 584 億円）であった。（→P.10）

| 年齢区分 （→P.10~15） | 内服薬 総額 （伸び幅） | 総額順（総額） | | |
|--------------------|-----------------------|-------------------------|---------------------------|---------------------------|
| | | 1 位 | 2 位 | 3 位 |
| 全年齢 | 3,451 億円 （+91 億円） | 21 循環器官用薬 （876 億円） | 11 中枢神経系用薬 （584 億円） | 39 その他の代謝性 医薬品（459 億円） |
| 0 歳以上 5 歳未満 | 37.8 億円 （▲0.84 億円） | 44 アレルギー用薬 （15.0 億円） | 61 抗生物質製剤 （10.7 億円） | 22 呼吸器官用薬 （5.2 億円） |
| 5 歳以上 15 歳未満 | 72.9 億円 （1.13 億円） | 44 アレルギー用薬 （32.4 億円） | 61 抗生物質製剤 （11.9 億円） | 11 中枢神経系用薬 （11.4 億円） |
| 15 歳以上 65 歳未満 | 1,223 億円 （▲2 億円） | 21 循環器官用薬 （273 億円） | 11 中枢神経系用薬 （259 億円） | 39 その他の代謝性 医薬品（170 億円） |
| 65 歳以上 75 歳未満 | 871 億円 （+53 億円） | 21 循環器官用薬 （267 億円） | 39 その他の代謝性 医薬品（136 億円） | 11 中枢神経系用薬 （103 億円） |
| 75 歳以上 | 1,247 億円 （+40 億円） | 21 循環器官用薬 （333 億円） | 11 中枢神経系用薬 （210 億円） | 39 その他の代謝性 医薬品（149 億円） |

(3) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 8,640 円（伸び率 0.4%）で、最も高かったのは石川県（10,857 円（伸び率▲1.5%））、最も低かったのは佐賀県（7,416 円（伸び率 1.5%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは千葉県（伸び率 2.0%）、最も低かったのは愛媛県（伸び率▲2.3%）であった。（→P.27~28）

【後発医薬品薬剤料】 534 億円（伸び率：22.0%、伸び幅 96 億円）（→P.36）

【後発医薬品割合】（→P.35）

| | 後発医薬品割合 | 伸び幅 |
|-------------------------|---------|-------|
| 数量ベース（新指標） ^注 | 55.1% | +9.1% |
| 薬剤料ベース | 12.9% | +2.0% |
| 後発品調剤率 | 59.1% | +6.1% |
| （参考）数量ベース（旧指標） | 35.9% | +5.8% |

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕〕で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.36~37）

| | 全体 | 最高 | 最低 |
|-----------------|--------|--------------------------|--------------------------|
| 後発医薬品薬剤料の伸び率 | +22.0% | +35.7% （5 歳以上 10 歳未満） | +9.4% （60 歳以上 65 歳未満） |
| 後発医薬品割合（薬剤料ベース） | 12.9% | 13.7% （65 歳以上 70 歳未満） | 8.7% （10 歳以上 15 歳未満） |

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

| 年齢区分 （→P.38~44） | 内服薬 総額 （伸び幅） | 総額順（総額） | | |
|--------------------|-----------------------|-------------------------|------------------------|--------------------------|
| | | 1 位 | 2 位 | 3 位 |
| 全年齢 | 471 億円 （+78 億円） | 21 循環器官用薬 （124 億円） | 23 消化器官用薬 （91 億円） | 11 中枢神経系用薬 （54 億円） |
| 0 歳以上 5 歳未満 | 4.62 億円 （+1.32 億円） | 22 呼吸器官用薬 （1.70 億円） | 61 抗生物質製剤 （1.26 億円） | 44 アレルギー用薬 （0.85 億円） |
| 5 歳以上 15 歳未満 | 7.56 億円 （+2.05 億円） | 44 アレルギー用薬 （3.15 億円） | 61 抗生物質製剤 （1.87 億円） | 22 呼吸器官用薬 （1.21 億円） |
| 15 歳以上 65 歳未満 | 161 億円 （+20 億円） | 21 循環器官用薬 （39 億円） | 23 消化器官用薬 （27 億円） | 11 中枢神経系用薬 （22 億円） |
| 65 歳以上 75 歳未満 | 122 億円 （+22 億円） | 21 循環器官用薬 （40 億円） | 23 消化器官用薬 （24 億円） | 39 その他の代謝性 医薬品（14 億円） |
| 75 歳以上 | 176 億円 （+32 億円） | 21 循環器官用薬 （45 億円） | 23 消化器官用薬 （40 億円） | 11 中枢神経系用薬 （24 億円） |

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

| | 全国 | 最高 | 最低 |
|--------------------------|--------|--------------|-------------|
| 処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料 | 830 円 | 1,167 円（岩手県） | 669 円（佐賀県） |
| 処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率 | +19.1% | +27.8%（秋田県） | +11.4%（奈良県） |
| 新指標による後発医薬品割合（数量ベース） | 55.1% | 69.5%（沖縄県） | 45.3%（徳島県） |
| 後発医薬品割合（薬剤料ベース） | 12.8% | 16.9%（鹿児島県） | 10.0%（徳島県） |
| 後発医薬品調剤率 | 59.1% | 71.6%（沖縄県） | 52.0%（徳島県） |
| （参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース） | 35.9% | 47.4%（沖縄県） | 30.0%（徳島県） |

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成26年6月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。